



地域とのつながり

朝夕冷え込む季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

先日のニュースで、富士山の初冠雪が例年より36日遅くなったことが話題になっていました。高度の高い山頂付近ではようやく紅葉が見頃になったと報道されていましたが、シャローム横浜では焼き芋などの食を通じて秋をご利用者と共に楽しんでおります。

当施設では、9月27日(日)にシャロームデイを5年ぶりに開催することができました。この行事は、日ごろから関わってくださっているボランティアの皆様への感謝の気持ちを伝えると共に、地域の皆様をお迎えしてシャローム横浜・桜山を知っていただくイベントとして毎年開催しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、イベント関係はすべて中止。ボランティアの皆様とも関りが途絶えてしまいました。そのような中でも、地域の皆様より「シャロームのボランティア受け入れはまだですか？」「交流したいですね」との心温まるお言葉を沢山いただき、地域

の皆様が待つておられることを嬉しく感じておりました。

今回のシャロームデイは5年ぶりの開催となりましたので、本来の目的に加えて、お待ちくださった方々への感謝と、これからのご挨拶を兼ねておもてなしさせていただきました。シャロームの特徴である食を中心に屋台を設けて、ご来場くださった約120名の方々に楽しんでいただきました。中には5年ぶりにお会いする方も多くあり、懐かしさを感じるとともに、今後も地域の皆様とともに歩む大切さを職員一同実感いたしました。また、特養のご利用者にボランティアによる演奏を聴いていただく機会を設けたことで、笑顔あふれるイベントになったと同時に、経験のない職員にとっては地域の皆様と共に作り上げるという貴重な体験をさせていただき、感謝申し上げます。

これからも地域のつながりを大切に、地域の一員としてより多くの皆様の声を聞かせていただきながら、皆様のニーズに誠実に対応してまいります。

施設長 高原信夫

第 292 号

令和6年 11月 15日 発行
(毎月1回 15日 発行)

責任者:施設長 高原信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜
☎045-922-7333

編集委員
荒金・石川・石橋

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



高齢者にとって優しい国になることを願って一票を

10月22日、3階入所者21名が衆議院議員総選挙に参加しました。大切な一票を投じることで、私たちの声が政治に届くことを実感し、意義深い時間を過ごしました。選挙を通じて、地域や社会への関心が高まり、皆で未来を考えるきっかけになりました。投票の重要性を再認識させられた一日でした。

3階副主任 ズルハム リトンガ



洗濯室で感じる季節の移ろい

猛暑もやっと終わり洗濯室に出てくる衣類で季節の移り変わりを感じています。これから寒い冬がやってきます。ご利用者の棚にも、暖かい衣類が少しずつ増えてきています。夏と冬では洗濯物の量にも差が出てきます。

今後も、ご利用者が洗濯された衣類を気持ちよく着ていただけるよう、心掛けていきたいと思っています。



洗濯室 相馬 あゆみ



安納芋の魅力をお届け

11月、栄養課主催で種子島の安納芋を焼き芋にして入居者の皆様に召し上がっていただきました。

そこで今回は「安納芋」について調べてみましたのでご紹介させていただきます。

第二次世界大戦後にスマトラ島北部のセルダンという地域から兵隊さんが持ち帰った1個の芋を島内で栽培しはじめたのが安納芋の始まりだと言われています。その芋は糖度が高く、食味が良いことから、その栽培が安納地域から他地域に拡大したことにより、安納地域の名称を取って「安納芋」と呼ばれるようになりました。

栄養課 課長 小寺 秀偉



公道で転倒して気づかされた事

第200回 チャプレン 上前 至

3週間ほど前のこと。奈良に家庭を持っている娘が東京に用事があり、ついでに横須賀の私共のところを訪問してくれた。本当に久しぶりでであり会えた事自体は嬉しいことであったが、そこで私にとってはショックな事件？が起こった。それは娘を近くの駅まで送っていった時であった。そこはかなり急な下りの坂道になっていたのだが、私はそこでどういうわけか、はっきりとした原因はわからないが急に何かにつまずき思い切り前に倒れこみ、その拍子に顔付近を道路の縁石にぶついたのである。家内も娘もびっくりし「大丈夫？」と駆け寄って声をかけてくれたが、一番びっくりしたのは本人の私であった。公道の坂道での転倒である。「救急車呼ぶ？」と娘が言ったが、さすがに私は「それはいいよ」と言いおもしろに立ち上がったのである。幸い骨折はしていなかったの

は感謝であったが、右膝と右肩、そして顔の右頬に打ち傷があり痛みが1週間ほど続いたのである。なりよりもショックだったのは公道で転倒するという経験は私にとっては初めての事であり、暫くは外に出て道を歩くことさえ、また、同じことが起こるのではないかと思ひ恐怖心が続いたことである。これを通して気づかされた事は老人ホームで暮らしている高齢者の人達の中にも転倒される事がある。その人達の思いの一端を、肉体的にも精神的にも理解できるようになった事は唯一の収穫であったと思っている。「主は言われる、私はあなたの健康を回復させ、あなたの傷を癒す。」エレミヤ 30章 17節

